新見市立思誠小学校　ことばの教室・こどものことばを育てる親の会【Since1976】TEL:(0867)72-3928/FAX:(0867)72-3928

No.458
2022年
1月6日
(木)

つくしんぼ

1月号
(睦月)
文責：瀧口

あけましておめでとうございます

　2022年がスタートしました。新型コロナウイルスのニュースを耳にしてから2年が経ちます。2021年も、刻々と変わる状況の対応に追われた1年でした。新年を無事迎え、今年こそ世の中の状況が好転することを願いつつ、子ども達に対してできる精一杯のことに取り組んでいきたいと思います。

　写真のトラは、ことばの教室の小学生が、パーツを切り、模様を描いて組み立てたものです。ボール紙は固く、大きくて切るのは難しかったですが、ていねいに作業したことで、とても立派な作品に仕上がりました。このトラを見て「乗ってみたい！」と言う子が多かったのですが、一緒に写真を撮ることで、我慢してもらいました。コロナでなければ、全員一緒に工作することができたと思うと残念です。

　さて、今年度の通級も残りわずか10週となりました。ぐっと寒くなるこの時期、体調を崩さないで元気に通ってきてくださいね。待っています。

「お正月遊び」で能力アップ？！

１月は、お正月の遊びも指導に取り入れたいと思っています。遊びの起源や意味を知ることで、日本の文化に親しみをもってくれるといいなと思っています。

【かるた・百人一首】

かるたはポルトガル語のカルタが語源です。百人一首は、戦国時代の頃の宮中、大名の遊びだったようです。取り札の位置を記憶したり、ことわざや上の句を覚えたりすると有利になりますね。「刺激」に対して正しい行動を「選択」し，素早く「反応」する『反応力』や『空間認知力』『記憶力』のトレーニングになります。

【こままわし】

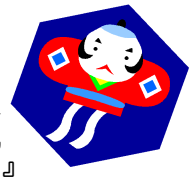
歴史が古く、平安時代にはこままわしの遊びの記録が残っているそうです。「人生が円満にまわる」「早く独り立ちできる」ことを願ったものだと言われています。こまを投げる角度調整、手首をやわらかく使う、ひもを引くタイミングをはかるなどのテクニックが必要です。指や手首の使い方をコントロールする力を養います。

【羽根つき】

室町時代に中国から伝わったそうです。ムクロジ（の種）は「無患子」＝患わない子と書き、病気を媒介する蚊を食べてくれる”トンボ”に見立てて打って飛ばします。厄をはらうため長く続けて打ち合う方がよいそうで、顔に墨を塗るのは魔除けのおまじないだそう。自分と物体の距離感を調整する『定位能力』と羽子板を操作する『識別能力』が鍛えられます。

【たこあげ】

凧は、もともとは中国で占いや戦いに使われていたそうです。高くあがるほど神様に近づくので、願い事が叶いやすいと言われます。しっかり走って『体力』をつけ、風をつかんだ後、糸の調整をする『調整能力』が鍛えられます。



【福わらい】

起源や詳細があまり明らかになっていませんが、特別な知識やテクニック、運動能力は必要とされないので、だれでも簡単に楽しめます。目かくしをしているので、指先の感覚を研ぎ澄ましたり、空間把握のトレーニングになります。

参考：こどもまなびラボ

お正月の獅子

やなせたかし

お正月にやってくる
獅子舞の獅子の歯は
ひらべったいから
草食系なんですね
全部金歯だから
全部ムシ歯だったんでしょうね
赤い顔してこわそうだけれど
食後に歯の手入れをしない
なまけ者なんですね
この頃のこどもたちは
よく歯をみがくから
お正月の獅子も
めっきり
見かけなくなりました